

JRR-3 設工認その5 で認可を受けた記載事項の変更に関する追加コメントについて

令和元年12月23日
日本原子力研究開発機構
原子力科学研究所

【R1/12/6行政相談コメント】

申請書の記載事項の変更が、耐震計算には影響しないことの根拠を示すこと。

今回変更を行う梁幅に関しては、正規の値を用いて耐震計算を行っているため、計算書の内容に変更は生じない。

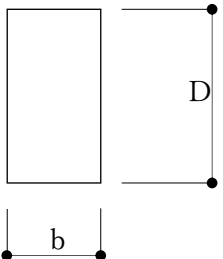
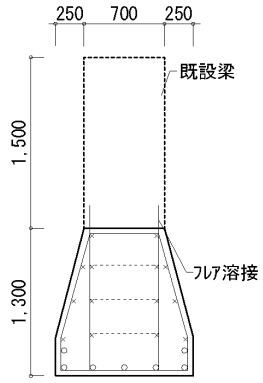
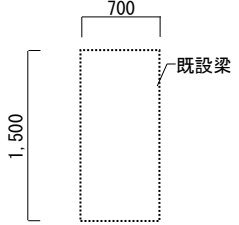
当該基礎梁の補強は、許容応力度設計（短期）において、設計曲げモーメントが既設梁断面の許容曲げモーメントを上回ることから、既設梁下に増し打ちコンクリートによる補強を行うものである。

当該基礎梁の断面算定結果を別表1に示す。

基礎梁の補強幅は、曲げモーメントに対する補強であるため、断面の評価結果に影響はない。また、せん断力に対しては、既存基礎梁の断面で評価を行っているため、せん断力に対しても評価結果に影響は生じない。

なお、アンカー筋は、補強筋（7-D22）の引張耐力を上回るような配置としている。

別表1 梁の断面算定結果 (A棟)

部材位置		ZA階、Y3-Y4間/X5通り	
梁記号		HfG1-1	
位置		Y3端	Y4端
設計 応力	MS(kN・m)上端	1796	1594
	MS(kN・m)下端	1701	60
	QS (kN)	751	876
断面			
	b×D (mm)	700×(1500+1300)	700×1500
	上端配筋	5-D25 ^{※1}	8-D25 ^{※1}
	下端配筋	7-D22	5-D25 ^{※1}
	あばら筋	□ -D13@150 ^{※1}	
許容 応力	MA(kN・m)上端	2097	1753
	MA(kN・m)下端	2181	1102
	QA (kN)	1836 ^{※2}	1537 ^{※2}

※1：既設鉄筋を示す。

※2：既存断面による許容値を示す。